



ZEIN 株式会社
代表取締役

志賀野 寛彦

志賀野社長には3つの揺るぎない信念がある。
「思い立ったらすぐに動く」、「素早く決断する」、そして「責任を持つ」。
「『最後の責任は負うから』という言葉は、人の心に響くと思うんです」と社長。
上司のその一言があれば、部下は様々なことに挑戦できる。心強いはずだ。
リーダーたるもの、素早く決断し、最後に責任を持つもの——。
社長の姿は、トップに立つ者のあるべき理想を示している。

**「最後に責任を持つ。
その姿勢をこれからも貫いていきたい」**

コンサルティング×テクノロジー クライアントのビジネス拡大をサポート



代表取締役
志賀野 寛彦

ZEIN 株式会社

東京都中央区新富 1-8-9 THE GATE GINZA EAST 6 階

URL : <https://zein.jp/>



変化し続けるマーケットの中で、コンサルティングとテクノロジーの両面で課題解決による経営支援を手掛けているのが『ZEIN』。社員全員（ゼイン）でクライアントの多様なニーズに答えている。本日は、そんな同社を竹原慎二氏が訪問し、志賀野社長に様々なお話を伺った。

——早速ですが、志賀野社長が事業を立ち上げられるまでの歩みから伺います。

大学卒業後、外資系のコンサルティングファームに就職しました。世界最大のコンサル会社で、研修期間が終わればあとは自分の実力次第という世界。スピード感を持って、多くの知識やスキルを吸収することができました。5年ほどキャリアを蓄積し、退社することに。それからフリーランスのコンサルタントとして独立を果たし、IT系のコンサル会社から仕事を請けるようになりました。

——予てから独立心をお持ちで？

ええ。ただ一度は独立してみたものの、組織で一つのチームとして仕事をするほうが、クライアントの多様なニーズに応えられるのではないかと実感しました。そこで「仲間を集める」「組織の中でトップになる」というミッションを掲げ、もう一度コンサル会社に就職しました。入社当時は従業員60名ほどの会社でしたが、合併などで600名規模の大企業に成長し、私はそちらで役員を務めるように。そして、信頼できる20名ほどの仲間たちと共に一昨年11月に『ZEIN』を設立。ようやく事業が軌道に乗ってきたところです。

——『ZEIN』さんではコンサルティングを手掛けられているとのこと。具体的などのようなサービスを？

当社では、「コンサルティング」と「テクノロジー」その両面で、課題解決による経営支援を行っています。たとえば、企業のIT環境の整備やシステム導入のサポートをする「ITコンサルティング」。端的に言いますと、消費者が店で買物をしてレジで会計を済ませると、取引情報はその企業の本社に集められている。蓄積された膨大な情報はシステムを使ってデータ化されているわけですが、私共はそのシステムそのものを作ったり、あるいは作るためのサポートをしています。今やどの業界でもITやシステムなしに運営はできません。そこで私共が、その企業に必要なIT環境の構築やシステム導入のお手伝いをさせていただいているわけです。

——御社には様々な業種に対応できる人材が揃っておられるということですが。

おっしゃる通りです。当社は多岐にわたる業種に特化した専門スキルを持つ人材に恵まれています。どんなに優れたシステムでも、それを生み出すのは人。私共が手掛ける事業は、「働く人」が重要な鍵を握っていると言っても過言ではありません。当社では、昨今の“働き方改革”の推進を背景に、社内外の業務効率化を支援するAIパッケージ「dArwIn」の提供を新たに開始しました。今後の事業柱

に据えるべく、さらに良い人材を揃えていきたいですね。

——人材育成に尽力されていくと。では最後に、今後の展望はいかがでしょう。

事業拡大と会社の価値向上を図り、2023年のIPOを目指しています。そこに向けては、昨年末に人材系企業をM&Aにより子会社化。今年度中には設立時の5倍となる100名体制に増員し組織力を強化していきます。また、並行して事業の多角化を行い、将来的には多くのメンバーに社長をやってもらえればと考えています。経営者にならなければ見えない世界を見てもらいたいですね。

(2019年3月取材)



「『ZEIN』さんに在籍されている社員さんの中には、志賀野社長と10年来の付き合いという方もおられるそう。独立当初、苦勞もあることは承知の上でついてきてくれた仲間たちへの感謝の思い。それこそが、社長の事業推進の原動力の一つになっているのだと感じましたね」 竹原 慎二・談